

経営比較分析表

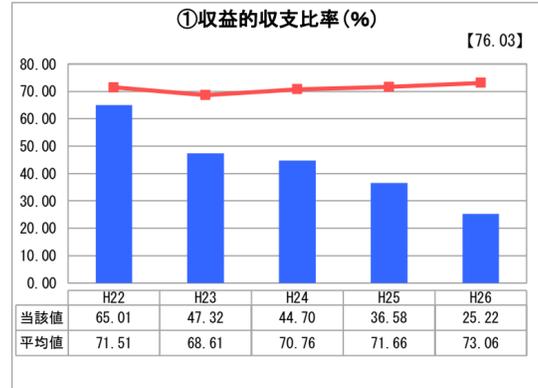
奈良県 野迫川村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	100.00	1,296

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
483	154.90	3.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
464	0.67	692.54

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



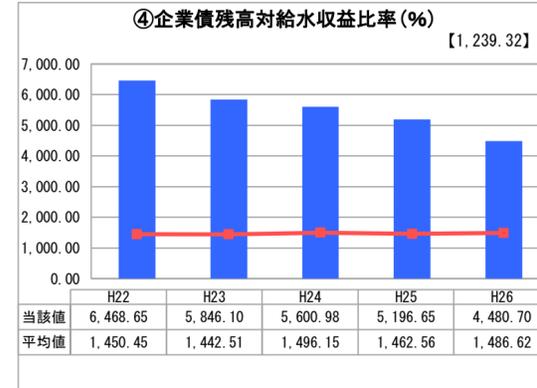
「単年度の収支」



「累積欠損」



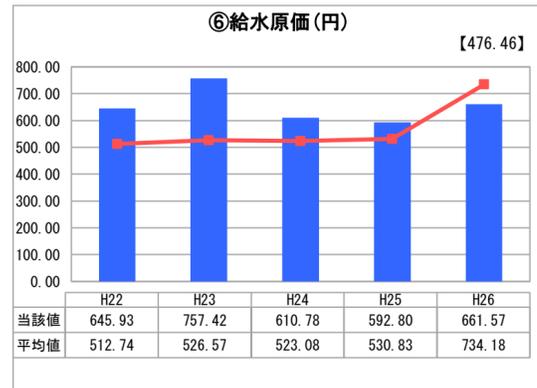
「支払能力」



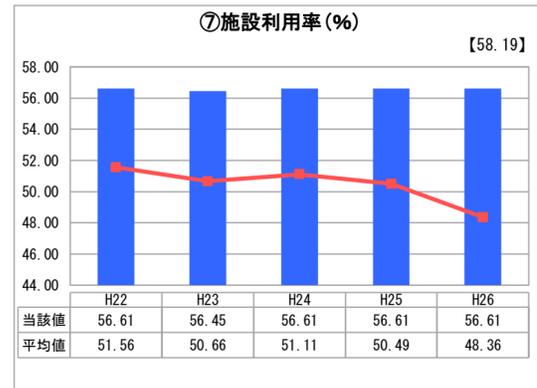
「債務残高」



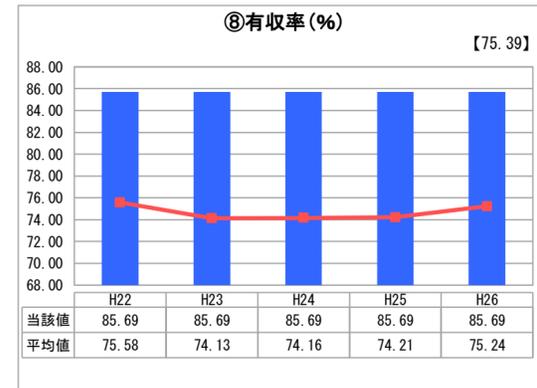
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

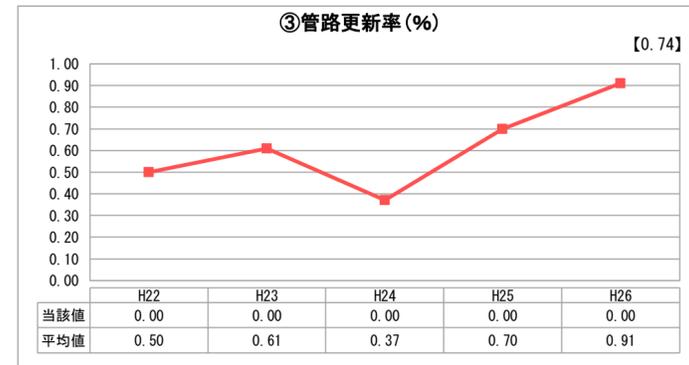
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当村は10の緩速ろ過施設、1つの膜ろ過施設で給水を行っている。昭和56年から平成17年にかけて改修を行ったため、支出の大部分は償還金となっており、企業債比率が高くなっている。起債が残っていることから、給水原価も高くなっており、またあわせて収益的収支比率が低くなっている。年々人口が減少しており、また地理的条件も厳しいことから水道料金のみで運営することが難しく、一般会計からの繰入金で経営している。

2. 老朽化の状況について

ろ過施設・管路は老朽化しており修繕だけでなく更新が必要であり、今後も費用の増加が見込まれる。

全体総括

今後修繕の費用も必要となることから、人口減少しているが変更を行っていなかった料金の値上げを検討する必要があると考えられる。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。